

へき地で働くコメディカルのキャリアデザインに関する研究 —愛知県内のへき地診療所における実態調査—

福山祐介 < 藤田医科大学 法人本部 広報部 >

目的とねらい

本研究の目的は、愛知県のへき地で勤務しているコメディカル(医師以外の医療従事者)を対象に、へき地で働く理由やその魅力を明らかにすることである。

(ア)コメディカルへ「へき地で働く」というキャリアデザインの新たな選択肢を提供すること

(イ)雇用側が求人告知や受け入れ体制において、限られた予算や人的資源の効率的な活用

上記2点を目指し、愛知県内のへき地医療の従事者不足の改善と医療提供安定化につなげたい。

研究方法

市町村等が設置した愛知県内の離島を除くへき地診療所(2019年7月現在で確認できた7施設)で勤務する医療従事者を対象とした。診療所に依頼状及び質問概要を郵送し、回答をしていただいた。

回答結果

| | |
|-------------|---------------|
| 回答施設数 | 3施設(送付:7施設) |
| 職種 | 看護職:6名 事務職:2名 |
| 正規・非正規 | 正規:7名 非正規:1名 |
| 性別 | 女性:7名 男性:1名 |
| へき地勤務を希望したか | 希望有:4名 希望無:4名 |

<愛知県内のへき地で働く魅力> ※抜粋

- 他職種の方(ケアマネ・民生委員)、地域の方、様々な方々と関わりをもち幅広い業務が行える。
- 地域の人々との近い距離感、触れ合いがある、気さくに声をかけてくれる。住民が少ないので通院患者を把握しやすく生活環境、住民環境、家族背景などを考えて看護を展開できる。
- 地域の人との交流、限られた資源の中で関係機関が連携しあいみていること。

<愛知県内のへき地で働く上での不満> ※抜粋

- 開設者の理解が乏しく、経営努力(利益)を優先している。
- 人手不足
- 給与面の安さ
- 研修、学会に参加するにしても公共交通機関などのアクセスが悪く気軽に参加できにくくなっている。移動に時間がかかる。
- 資源が限られると、地域の中では対応できないこと(大きな病院での受診など)。
- 自分の職種以外の業務もこなさなければならない。

考察と課題

愛知県内のへき地で勤務するキャリアデザインの形成に、「地域住民・他職種など様々な人との交流」「家族背景などまで考えて医療を提供できる」「幅広い業務に携われる」といった魅力があることがわかる。一方で、自分の職種以外の業務に携わることが不満であると回答した医療従事者もいた。勤務希望者・実際に勤務しているコメディカルへの具体的な情報提供や入職後のフォローが必要である。

雇用者側の求人告知においては、単なる給与や勤務体系のみならず、どのような業務ができるのか等の情報を具体的に提供し、受入においても研修への参加支援(金銭的だけでなくICTの利用なども含めた対応)といった施策の拡充が重要であることが示唆される。

本研究においては、対象が愛知県内と限定的であった。研究の対象を広げ、考察していくことが今後の課題である。